

シリーズ ⑤②

我が家の家庭教育

木戸 鵜沢 緑

刺激を与えられたら最高

わが家は、小三と小一の女の子二人と、私たち夫婦の完全なる核家族です。

私たちは、県内出身ですが結婚当初の主人の勤務地は、北海道でした。親類の全くない地での長女の誕生と共にわが家の家庭教育が始まりました。

主人の仕事上、朝出勤したら、夜遅く迄戻りません。その上、日曜も祭日もままた

ず長期出張といって、時には六か月から二年間位、札幌を離れてしまうこともありました。もちろん子連れなので、私は、春迄待つて後からついていきました。

札幌・帯広・根室と、それぞれがう環境の中での子育ての大変さは、いうまでもありませんが、なんとか無事にやってこられました。そして転職、転職と経て、光町へやってきたのです。

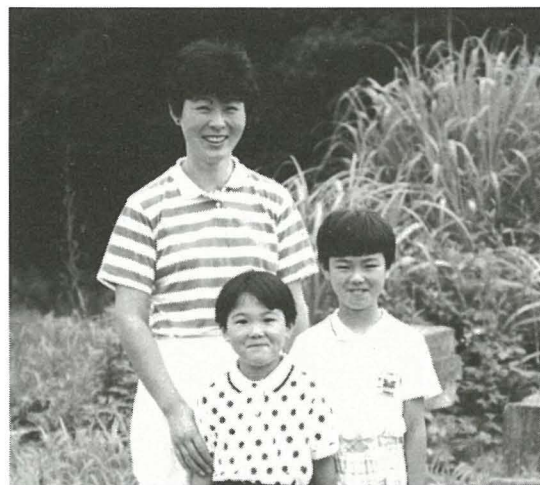
今度は、転職も、長期出張もなくになりましたが、主人の生活時間帯は、あまり変わりません。ですから、当然夫婦の役割分担は決まっています。父親的役割をも私が果たさなければならなくなるのです。

プールや海水浴、好むと好まざるにかかわらず、安全の為に水着を着なければならずしみの素を作ります。女の子二人とい

うのが幸いしていろいろの

ようか。その他、キヤッチボール、サッカー、遊園地等

まだ当分子どもたちには追い越される心配はないと思うのですが……？
このような家庭環境ですから、子育てについては、ずい



分悩みました。その結果、書物、母親教室、幼児学級、家庭教育学級、子ども会活動など、地域の行事にできるだけ積極的

に積極的に参加し、自分の子どもをよく見つめ

理解してやるように努力し、自分なりに積み重ねていくと

して、何よりも私自身が輝いて生きられるよう努力し、子どもにも刺激を与えられれば最高だと思

私は、光町に来てから、この地域の方々から、たくさん刺激されました。特に、この町の女の人のパワーには、脱帽です。仕事を持っていてという事、その上でナイターで

私も、スポーツを愛する一人として、刺激され、パートでほんの少しだけ働いています。まだまだ及びませんが、私なりに、自分のライフスタイルが、見つけれられた様な気が

二人の子どももそれなりにわかってくれて、応援してくれています。これから、子どもと共に、成長していきたいと思

ひかりまちの風土記 ⑦



大序



山出の死

鬼来迎

虫生

鬼来迎は虫生広済寺に鎌倉時代から伝わる仏教劇で別名鬼舞とも呼ばれています。劇は大序・賽の河原・釜入れ・死出の山・和尚道行・墓

参・和尚物語の七段から構成されています。

例年七月十六日に鬼来迎保存会により上演されていますが、近年は八月十六日に変更されています。上演日には、国の重要無形文化財に指定されていることもあり、近隣市町村はもとより、他県からの見学者も多数訪れています。